

◎ 長福寺檀家総会 ◎

平成 29 年 10 月 29 日(日)

●会長挨拶

●住職挨拶

●議 題

○長福寺修善工事について

長福寺は石見の寺院の中でも歴史が深く、天文九年（1540）年開山三休上人によって開かれた名刹であり、毛利元就公ゆかりの寺として知られています。

また、別名『晴雲寺』と言われるぐらい西晴雲の作品が多くあります。石見左官の『鍔絵』や、大田市の重要文化財に指定された『腹籠もり地藏尊』などもあります。

この度の修善工事をお願いするに当たって、長福寺の歴史と価値を再認識して頂き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

○修善箇所の説明

『本堂』

『観音堂』

『弁財天』

『石垣』

○檀家数・寄付額

○志納方法

○本会での決議

○今後の流れ

◎長福寺修繕工事『本堂』

この度の修繕工事にあたり、各所の傷み具合を調べていただきました。屋根はご存知の通り、前回の屋根替えで使用した釘が錆びて膨張し釘穴から亀裂が入り瓦が割れてしまう箇所が何カ所もあり、また瓦の表側から見ただけでは割れているかの判断が付かず、剥ぐって調べなければなりません。ここ数年何回も雨漏りがあり、そのたびに足場を組んでもらい修繕してまいりましたが、屋根裏や垂木などの傷みが激しくなっております。

これだけの大きさの本堂を再建するとなれば大変なこととなります。何とか現状を改善して管理をしていきたいと考えています。

①



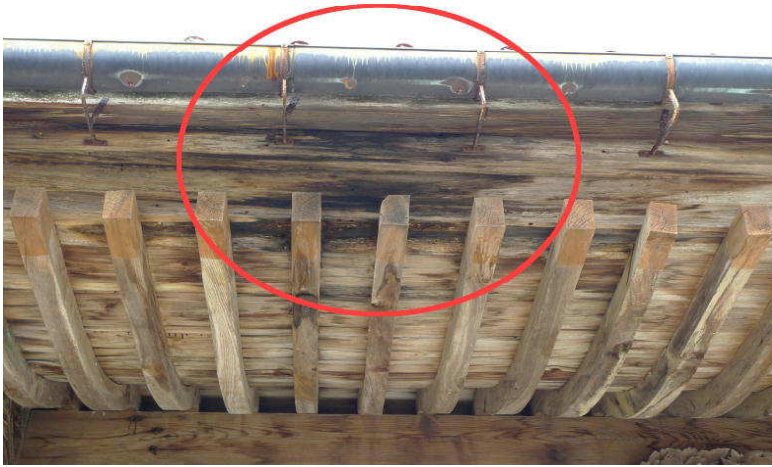
釘の腐食膨張により、瓦に亀裂が入っています。

②



全体に亀裂が走り割れています。表面から確認できる物もあれば、剥ぐってみないと確認できない物もあります。

①



写真は傷んだ箇所の一部ですが、雨漏りにより腐ってきています。

②



③



屋根裏の写真です。雨漏りにより傷んでいます。屋根裏から下に水が落ちている訳ではないので、上がって見るまで解らない状態でした。数カ所あります。

雨漏りは建物には一番悪い状況なので、早めの対策が必要です。そのために屋根替えが必要であると判断致しました。

屋根替えをするに当たって、本堂全体を調べて頂きました。本堂は江戸時代の建物で、かなり年数がたっています。本堂全体は後側の山側に傾いており、床のレベルも狂っていて、内陣の柱は前後で6 cm ぐらい高さが違ってきています。床下も調べて頂きましたが、シロアリや湿気などにより各所で傷みがあります。

①



床下の写真です。

②



③



瓦を全部おろした状態で、床のレベル調整やゆがみ等の調節を行う予定にしています。

①



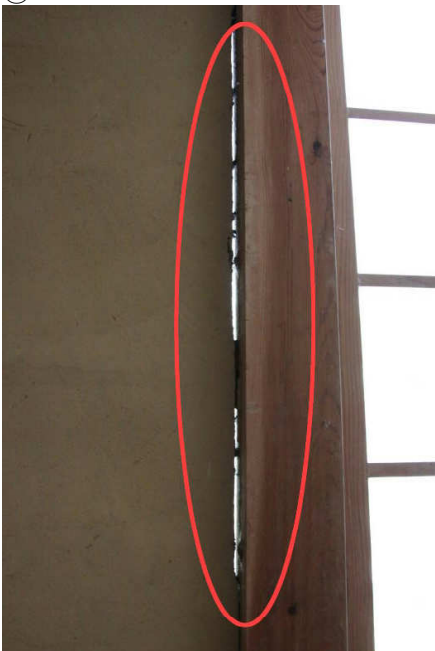
裏堂の写真です。傾いて土壁と柱の間に隙間が出来ています。外の光が入ってきます。

②

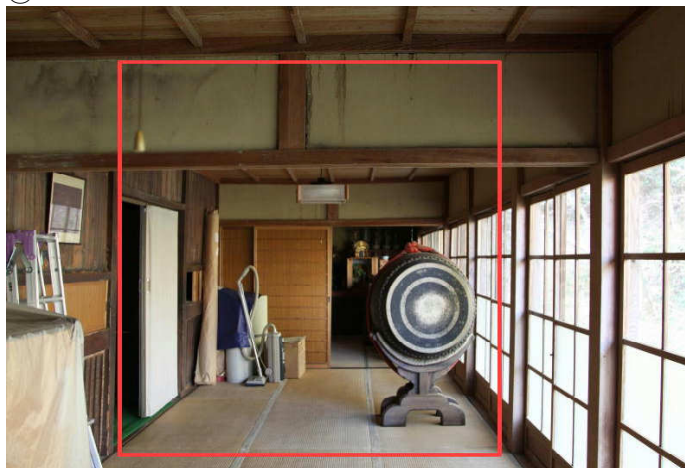


各所に雨漏りの後があり、部屋自体がゆがんでいます。

③



④

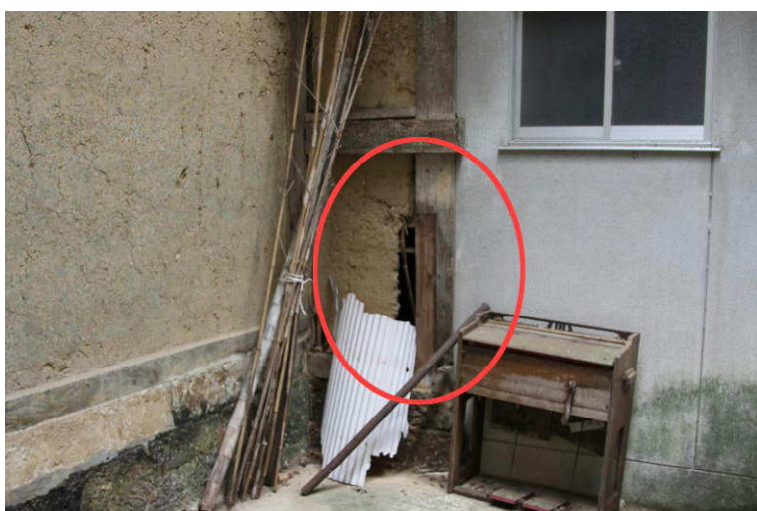


①



本堂の裏側は土壁がむき出しのままです。

②



土壁が崩れ穴が空いています。

③



昔ながらのガラス戸で鍵が出来ません。サッシに変更する予定です。

◎長福寺修善工事『観音堂』

観音堂は上川内の妙泉庵と言う小庵であったが、長福寺第6世檀誉上人が長福寺の境内に移築し観音堂とした。長福寺第9世専誉上人が寛文11年(1671)に再興された記録があります。本尊の観音菩薩をはじめ、33体の観音様『三十三観音』が安置されています。石見銀山御料三十三所観音巡礼札所として元禄6年(1693)に改築し、第12番札所となっています。前回のご寄付の際に修善据え置きとなり、かなり傷みが激しくなりました。長福寺境内の諸堂として再建し、お守りして行きたいと考えております。

①



屋根が傷み傾いています。

②



池のそばで湿気などの影響で傷みが激しいです。

屋根替えなども検討致しましたが、建物自体も傷みが激しく基礎も湿気対策をしなければならぬので、解体・新築で考えています。

◎長福寺修繕工事『弁財天』

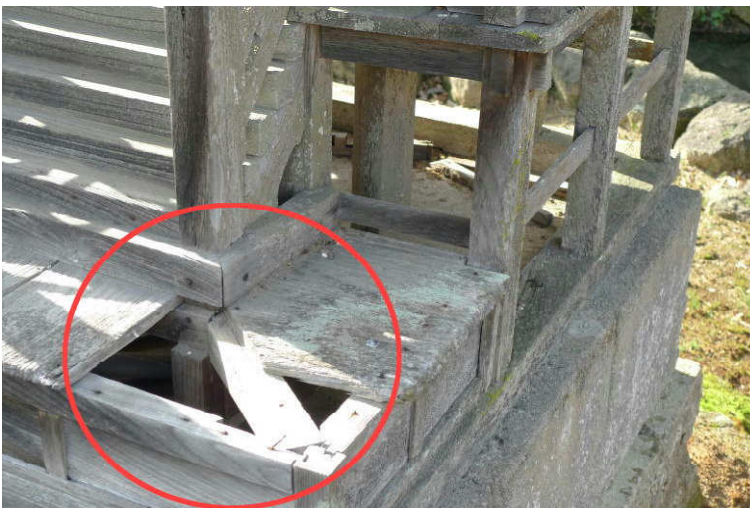
『弁天さん』は古くから長福寺にあり、いつ頃からあるのかはさだかではありませんが、ここの泉水は湧き水であり長年枯れたことはありません。昔は飲み水であったり、農業用水であったり大切にされてきたと推測されます。その大事な水源をお守りするために水の神様である弁財天がお祭りしてあるのだと思われます。



銅板の下はぼろぼろになっており、触ったら取れてしましそうです。



半分は崩れ落ちています。



至る所がボロボロです。

◎長福寺修繕工事『石垣』

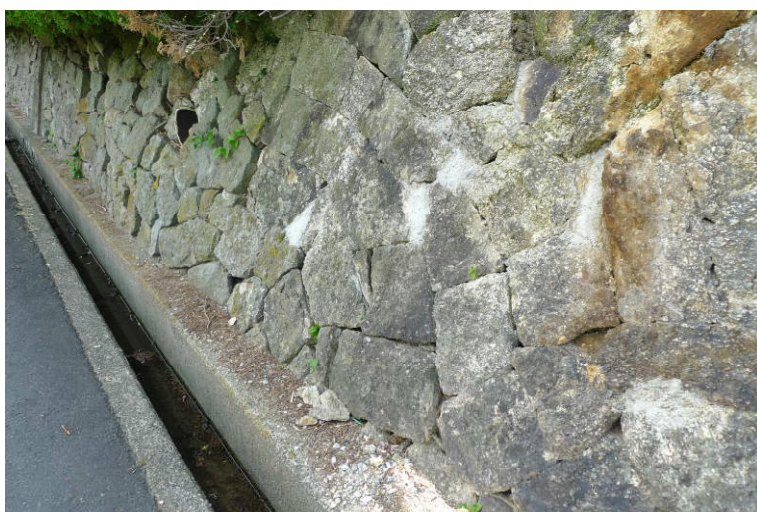
石垣も前回のご寄付の際に修善据え置きとなった案件です。「カイズカ」が植わっており、根っこの影響もあると思いますが石垣がふくらんだりして形が崩れてきました。石垣と「カイズカ」の影響で、近年トイレの浄化槽にヒビが入り水が漏れる事故が2回起きています。



「カイズカ」が大きくなりすぎて道路を圧迫しています。



形が崩れてきています。



柔らかい石なので、ボロボロ崩れてきます。

長福寺修繕工事資金計画試算表

◎見積通り

本堂改修費 (金田建築)	55,000,000 円	
観音堂・弁財天 (金田建築)	17,150,000 円	(観音堂 13,650,000 円・弁財天 3,500,000 円)
石垣補強工事 (岩谷工務店)	9,072,000 円	
佛象・宮殿 移動保管掃除等 (三原仏壇店)	1,098,000 円	金箔塗りかえ、修繕した場合 4,500,000 円 今回は埃取り程度(今後の課題)
税抜き合計	82,320,000 円	
税込合計	88,905,600 円	消費税 8%の場合

平成 28 年度護持会納入檀家数 344 戸 (地区内 249 戸・地区外 95 戸)

税込合計 88,905,000 円 ÷ 檀家数 344 戸 = 約 **259,000 円** (100 円から端数繰り上げ)

想定目標金額 90,000,000 円 (予備付帯工事費・落慶法要費等の経費含む)

90,000,000 円 ÷ 334 戸 = 1 戸あたり約 **262,000 円**

◎再見積

本堂改修費 (金田建築)	53,000,000 円	
観音堂・弁財天 (金田建築)	15,900,000 円	(観音堂 12,650,000 円・弁財天 3,250,000 円)
石垣補強工事 (岩谷工務店)	6,804,000 円	
佛象・宮殿 移動保管掃除等 (三原仏壇店)	1,000,000 円	
税抜き合計	76,704,000 円	
税込合計	82,840,320 円	消費税 8%の場合

税込合計 82,840,320 円 ÷ 檀家数 344 戸 = 約 **241,000 円** (100 円から端数繰り上げ)

想定目標金額 86,000,000 円 (予備付帯工事費・落慶法要費等の経費含む)

86,000,000 円 ÷ 344 戸 = 1 戸あたり **250,000 円**

1 戸あたり寄付額 250,000 円

寄付金支払い方法

1 戸あたり 寄付額	支払い方法 (1 回～5 年)
250,000 円	1 回＝一括 250,000 円
	2 回＝初回 125,000 円・2 回目 125,000 円
	3 回＝初回 90,000 円・2 回目 80,000 円・3 回目 80,000 円
	5 回＝毎年 50,000 円×5 回
	12 回(1 年毎月払)＝初回 30,000 円・2 回目から月々 20,000 円
	24 回(2 年毎月払)＝初回 20,000 円・2 回目から月々 10,000 円
	36 回(3 年毎月払)＝初回 40,000 円・2 回目から月々 6,000 円
	48 回(4 年毎月払)＝初回 15,000 円・2 回目から月々 5,000 円
	60 回(5 年毎月払)＝初回 14,000 円・2 回目から月々 4,000 円

◎今後の予定

①建設委員を選出

以後建設委員会にて建築工事全般を検討する

②総代・世話人による寄付帳へ寄付額記入のお願い(平成 29 年 年内中)

③借り入れ等の検討 (建設委員で検討)

浄土宗からは 10,000,000 円まで借りられる (返済期間は 10 年以内 貸付利率 年 0.8%)

寄付額が目標金額に届かない場合どうするか (特別寄付等の検討)

④寄付金の受付 (平成 30 年 4 より月)

世話人に集めてもらう 各檀家にて支払い方法が異なる

⑤工事行程 (平成 31 年着工)

工期については建築工務店との話し合い

着工金の支払い 中間支払い・最終の支払い (建設委員で検討)

⑥落慶法要 (完成報告法要 平成?年)

工事完成後に執り行う 記念品はどうするか? (建設委員で検討)

※ 決定した寄付額以上の寄付者は本堂に張り出す (辞退可) なども検討